

単元名 雨の大冒険の音楽をつくろう

1 学年

- 小 田
1 1
2 2
3
4
5
⑥

2 教科・領域

- 国語 生活
社会 家庭
算数 図工
数学 道徳
理科 総合
⑤ 音楽

背景

本題材では、音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし見通しをもって音楽をつくることをねらいとしている。題材のテーマを「雨」と設定したのは、雨が生活の中で身近であり、降る場所や雨粒の大きさ、降り方によって音色や強弱の違いなど多様な表情を見せるものであり、「雨」を題材とした作品も多くあることから、表現の可能性や広がり期待できると考えたからである。また、「雨」は児童にとって多くの創造力をかきたて、水との関連性も強い。湧き水や川、沼を近くにもつ環境にある本校の児童にとって、水との関わりについて考えることは難しいことではない。小学校を卒業する6年生にとっては他教科で学んだ知識から、音楽科においてもこれまでの音楽づくりで学んできた技能を使って、自分たちのイメージする雨の様子を音楽で表すことで、水について再考するよい機会になるものと考え、この題材を設定した。

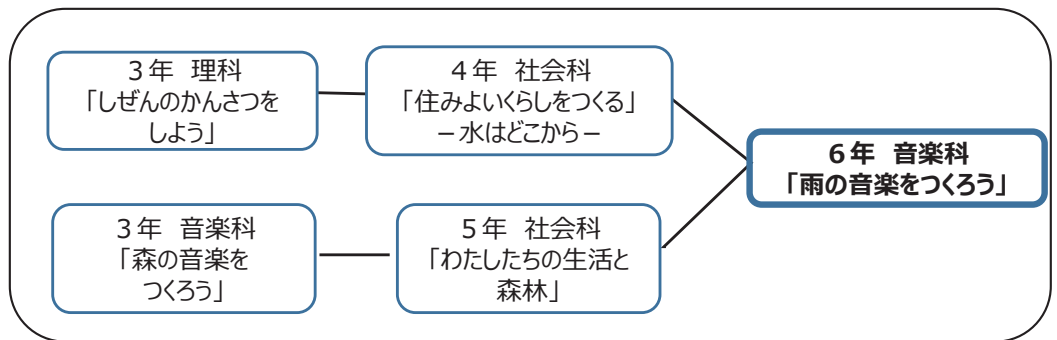
ねらい

- 楽器の音色の違いや音の重なりを聴き合い、感じ合いながら、それらが生み出すよさや面白さを生かして雨の様子を表現する音楽をつくる。(音楽表現の技能)
- 雨の様子を表す音楽を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさ、音楽を形づくっている要素に気がつきながら聴く。(鑑賞の能力)

系統

3 見方と考え方

- 多様性
関連性
⑤ 空間的広がり
時間的変化



4 資質・能力

- 知識・技能
思考力
判断力
⑤ 表現力
⑤ 主態度

資料・準備・関連機関等

- 資料**
- ・教育出版「音楽のおくりもの」
 - ・音源 「雨だれ」、「雨の樹」、「モルダウ」、「子どものためのルールによる音楽」より「ピアノのために」「鉄琴のために」
 - ・写真 (雨・霧雨・大雨・雷雨・雨を待つ人々・雨上がりの虹・雨上がりの美しいしずく・雨でうるおう大地や植物・水の循環)

指導計画

5 指導時間

- ・準備
・授業時間 1コマ(45分)

時配	学習内容
1	「雨」の様子を表した写真から、雨の雰囲気や想像し、雨に対する気持ちやイメージをもたせる。 「雨だれ」「雨の樹」を聴いて音楽を形づくっている要素を感じ取る。 自分なりの「雨」の音や響きを即興的に表現して楽しむ。
2	ドローンをういた音楽づくりの方法を知り、想像した雨の情景の音をドローンに重ねて即興的に表現する。
3	「子どものためのルールによる音楽」を聴いて、まとまりのある音楽について、めあてをもつ。
4 (本時)	自分たちのイメージに合った雨の音楽を仕上げる。
5	グループごとに思いが伝わるように演奏し、聴き合う。 再度「雨だれ」を聴き、音楽を形づくっている要素などがもたらす効果を感じ取って聴く。

本時でねらう見方や考え方

「雨」をテーマにした音楽づくりを通して、水の循環への関心を高め、加えて水への恵に対する感謝の念を育てる。

本時の指導 4/5

(1) 目標 「雨」に対するイメージを広げ、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを生かし、まとまりのある音楽をつくる。

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	[共通事項]の扱い	
めあてをもつ	4	1 学習の雰囲気づくりをする。 「明日を信じて」を歌う。	・ユニゾン、問いと答え、音の重なり それぞれの部分の歌い方に気を付けて歌い、音楽づくりへの意欲を持たせる。	強弱、音の重なり、問いと答え、変化：曲想に合った声の出し方を工夫する。	
見通しを持つ	3	2 本時のめあてをつかむ。 (学) 自分たちのイメージに合った雨の音楽を仕上げよう。			
考えを深める	10	3 前時までに作った雨の音楽と表したい雨の情景とのつながりを確認する。 ◎前回、雨の音楽をつくりましたが、今日はさらに自分たちのイメージに合った音楽にしていきたいと思います。 ◎まず、1グループ、前の時間につくった雨の音楽を聴いてみましょう。そして、その演奏は表そうとした雨の情景が聴いている人に伝わるか考えてみましょう。	・発表グループのワークシートを見ながら、表したい雨の表現になっているか考えながら聴く。		
	25	4 さらに工夫をして、雨の音楽を仕上げる。 ◎それでは、実際に音を出しながら自分たちの雨の音楽にもう工夫して表したい情景に近づけるよう工夫をしていきましょう。ポイントは強弱・速度・音色・始め方・終わり方・様子の変化にしぼって考えていきましょう。 ・強弱をもう少しつけたら、強く降る雨や弱く降る雨がはっきり伝わるのではないかな。 ・雨で潤う植物のうれしそうな様子はもう少し明るい音や木琴のバチを変えてやわらかい音で表した方が伝わるかな。 ・私たちが住んでいる地区に降った雨は、川に流れ込みその途中で蒸発し、雲となって再び地上に降り注ぐ。その様子を表すために、旋律を反復させたらどうかな。 ・最初は雨が嫌なイメージだったけれど、だんだん乾いた土地が雨で潤う様子を見ると雨がうれしいイメージになる。そんな様子を表すには曲の感じをだんだん明るく変化させていった方がいいのではないかな。	・表現の工夫をする時にはどうしてそう考えたのかという根拠をもって話し合うよう助言する。 ・これまで聴いてきた音楽も参考にするよう助言する。 ・雨に対するイメージを想起させながら音楽と結び付けて考えられるようにする。		
			5 次の発表に向けて、グループで演奏して聴き合い最後の準備をする。		・時間に余裕があれば、「〇〇川に流れ、その後、印旛沼→長門川→利根川→太平洋へと旅をする。またその途中で一部は蒸発し空に上り、雲となり雨となって再び地上に降り注ぐ」等の具体的な説明を加えると児童のイメージがより鮮明になる。 (資料①雨の行方の図)
			6 次の学習予定を知る。		☆ (創-②) 強弱、速度、音色、反復、始め方や終わり方などを工夫して「雨」の様子を表す工夫している。 評価方法：演奏の聴取 発言の内容

(3) 板書計画

(学) 自分たちのイメージに合った雨の音楽を仕上げよう。

ウ グループ内の役割分担

	メンバー	1	2	...	旋律の音の動きの例
合いの手		一つの枠に4/4拍子2小節			<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
短い旋律のパターン		付箋を貼る			<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
旋律 1					<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
旋律 2					<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
旋律 3					
ドローン (して終わる)					

音楽づくりのルール

ア 使う音は

レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ

イ 工夫するもの
・強弱 ・速度 ・音色 ・始め方 ・終わり方 ・変化 ・反復

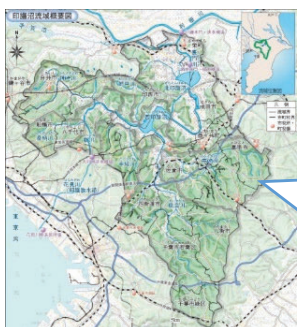
雨の風景 (ホワイトボードに写真と共に掲示)

・雨・霧雨・大雨・雷雨・雨を待つ人々・雨上がりの虹・雨上がりの美しいしずく・雨でうるおう大地や植物・水の循環

資料等

(1) 資料及び使い方

① 雨の行方の図 (発展)



- 1 学校の位置を示す。
 - 2 地図の高低差を見て、どの河川に雨水が流れ込むかを児童に説明する。
 - 3 指示棒等で河川に流れ込んだ水の流れを、追っていく。
 - 4 最終的に再び雨として大地に注ぐ事を伝え、水が循環する事を説明する。
- 雨の粒の大冒険として擬人化して扱っても面白い。

※役割分担表・図形楽譜のワークシートはいんばぬま情報広場でダウンロードできます

児童が作成した役割分担表 (設計図)

自分たちのイメージに合った雨の音楽をつくろう		チーム名	あめ男・女チームおぼろ 1班
雨のイメージ	鉄琴系・木琴系 (+)	こさめ (ホリホリ)	大雨 (はげしい雨)
メンバー			
楽器			
合いの手			
短い旋律のパターン			
旋律1		ヒカ-ニッ! (晴れ! にじが)	こさめ (ホリホリ)
旋律2			
旋律3		カカる) (花が身通る)	
ドローン			

児童が作成した図形楽譜

自分たちのイメージに合った雨の音楽をつくろう		チーム名	おぼろ
雨のイメージ	みんなの約束なども書いておこう!	おぼろ	
メンバー			
楽器	1フレーズ (2小節)	2フレーズ	
合いの手			
短い旋律のパターン			
旋律1			
旋律2			
旋律3			
ドローン	ラララララララ レレレレレレレ		

↑ 音の重ね方を可視化することにより音楽の構造を理解しやすく表した図形楽譜。付箋は自分の入るタイミングと音の長さを表わしている。

(2) 発展

- ・「(1) 資料及び使い方 ①雨の行方の図(発展)」で示した図を用いて、雨水が印旛沼や印旛沼流域の河川をめぐる様子を意識させることができるとよいと思います。
- ・最初から水の循環(雨の粒の大冒険)をテーマとして地域を題材に取り組むことも考えられます。学校の周りに降った雨が川に流れ、再び雨となるまでの様子を示し、いくつかの部分にあらかじめ分けておきます。その中から同じ部分に興味をもった児童同士でグループを組み、音楽づくりを行い、最終的には、流れに沿ってつくった音楽を演奏することで水の循環を表現するという考えられます。その際には、小雨から大雨になったり、細い川から大きな川に合流したり、逆に川が細くなったり、乾いた土地に恵みを与える水の部分があったりするなど、変化があると児童は音楽づくりに取り組みやすいかと思います。

(3) 授業のポイント

- ・最初に歌唱では、「みんなの声がよく揃っているかな」とか「この旋律や歌詞にはどんな声がか合うかな」「問いと答えの部分はどんな気持ちで歌ったらいいかな」など、本時の「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」について意識させる教師の働きかけができるとよいと思います。
- ・児童が自ら音を出して試しながら自分たちのイメージに合った音を探していく過程を大切に授業が流れていくとよいと思います。そのためには、鑑賞や歌唱で強弱や音色、速度など本時で扱いたい共通事項に触れさせそれをもとに本時でアドバイスをしたり、共通事項を変化させてみてあるときと無いときで比較をさせたりして選んでいけるようにすることが効果的かと思われます。

(4) 留意点

- ・木琴、鉄琴を中心に楽器を使用し、使う楽器の種類をグループごとに統一すると、より音色が揃うので、仕上がりに統一感が感じられます。
- ・演奏の際に、付箋を用いた図形楽譜を使うことで、タイミングをつかんだり、変更を簡単にしたりすることができたので、音を出し試しながら練り上げていく場面では効果的かと思われます。
- ・表現の工夫をする場面では、どうしてそう考えたのかという根拠を大切に話し合いをするよう助言の際に心掛けました。
- ・本授業を実施する上で、参考となる資料をホームページで閲覧できますので、参考にしてください。